

第2回 市民と市長のふれあいトーク  
報告書（要点）

日 時：平成30年6月2日（土）午前10時から正午

会 場：0123はらっぱ

出席者：子育て支援団体（NPO 法人泉の会、境おやこひろば、NPO 法人保育サービスひまわりママ、NPO 法人ぐーぐーらいぶ、けやきこもれびひろば、西久保コミセンひろばピノキオ）、幼稚園（聖泉、樫の実）、保育園（西久保）、子ども協会（境こども園） 各代表者 計10名

傍聴者 1名

市長、子ども家庭部長、子ども政策課長、子ども育成課長、市民活動担当部長

1 開会

2 意見交換

(1) 支援の担い手について

- ・子育てを終えた母親が集まって支援を始めたが、世代がつながっていない。
- ・子育て支援＝ボランティアと思われがちだが有償でもよいのではないか？
- ・支援を受けた側が、数年後支援する側に回りたくても、復職すると地域にいないくなる。
- ・「できる範囲で支援したい」という希望は多い。活用するにはそれぞれをつなぐコーディネーターが必要になる。
- ・高齢者を活用する方法もあるが、高齢者は「求められている」と感じるきっかけがない。
- ・社会復帰をめざす「ひきこもり」の若者に短時間の協力をしてもらうこともできる。（「短時間」であることが重要）
- ・スタッフを頼るだけでなく、母親同士がお互いに協力し合うことも必要。

(2) 利用しやすい又は需要の多い支援とは？

- ・一時保育・一時預かりのニーズは（特に短時間が）増えているが、場所が足りない。また、登録手続きが煩わしいという声もある。
- ・子育てに不安を感じている母親が、他愛もない事を気軽に相談できる相手。（例：産後の家事支援ヘルパー、健康課の「赤ちゃん訪問」の助産師など）
- ・スタッフがいなくても親子で遊べるひろば（スペース）は地域でのつながりに発展するし、そこに月に数回でも相談員が来てくれると心強い。
- ・市の講座などへ参加すると、そこで出会った母親同士（知らないもの同士）で気軽に会話できる。
- ・民間団体が母親たちに支援活動のPRをしても断られることがよくある。認知度が上がるよう行政の協力が欲しい。
- ・サイトの「すくすくナビ」は評判がいい。市は団体の情報が届きやすい方法を模索してくれていると感じる。

3 閉会